

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんにおかれましては、平成 28 年という輝かしい新春をご家族揃ってご壮健にてお迎えになられたことと、心からお慶びを申し上げます。

年末年始 1 週間ほどの休みがありましたけれども、この間、家族とともにリフレッシュされ、新たな気持ちで今ここに立っていることと思います。

去年は皆さんには、住民の皆さんの福祉の増進、町勢の進展に尽力をいただきましたことを心から感謝を申し上げます。職員の皆さん、地域の皆さん、各団体の皆さんのご尽力をいただきまして、去年は蒔いた種の芽が出はじめ、大きな成果をあげることができた 1 年であったと思います。

去年を振り返ってみますと、3 月に三芳町の消防団が消防庁長官から表彰旗の授与をされました。続いて 5 月に広報みよしが内閣総理大臣賞を受賞し、日本一になりました。そして 9 月には藤久保第 3 区自主防災会が防災担当大臣から防災功労表彰、さらには 11 月に三芳町の川越いも振興会が天皇杯の受賞という、うれしいニュースが、しかもなかなか受賞できない多くの賞をいただくことができました。そのほかにも各課の皆さんにはそれぞれの分野で大変ご尽力をいただき、大きな成果をあげることができたと思っています。

藤久保の平地林が、さいたまみどりのトラスト第 14 号地に認定を受けましたし、関越自動車道三芳スマートインターのフル化が事業化決定をいたしました。健康長寿プロジェクトのスタート、さらにはデマンド交通の再運転試行。そして懸案であった中央公民館、学校給食センター、第 3 保育所も完成をいたしました。改めて多くの職員の皆さん、地域の皆さん、各団体の皆さんにしっかりと町を支えていただいている、わたくし自身はいつも「良樹細根」という言葉を使っていますが、そんな素敵な町だなと強く感じています。まずは、心から感謝を申し上げたいと思います。

この後恒例の表彰がありますが、去年、職員表彰規程を改正いたしまして、勤続表彰、個人表彰のほかに課の表彰もさせていただくことにいたしました。ここ数年あるいは長い間、町勢進展にご尽力いただいた個人、課の皆さんをこのあと表彰をさせていただきますけれども、まずもってお祝いを申し上げますとともに、心から感謝を申し上げます。そしてさらに精進し、町勢進展にご尽力をいただけたらと思います。

さて、わたくしの今年の 1 年の抱負、あるいは皆さんへのメッセージですが、広報みよ

し1月号の巻頭に書かせていただきました。『至誠は息む無し』『1万回の祈り』です。

四書五経の中庸の中にこんな言葉があります。

『至誠は息む無し。息まざれば則ち久しく、久しければ則ち徴あり。徴あれば則ち悠遠なり。』という言葉があります。至誠、誠の心、本気の気持ちを持って、久しく休むことなく続けていれば、必ずその兆しが現れてくる。そしてさらに続けていくと大きな成果となって、遙か遠くまで広がっていくという言葉です。

昨年、ある意味では大きな成果をあげることができました。あるいはあげることができたように思われました。だからこそ初心にかえり、継続していくことが大事だということをも自分自身に言い聞かせているつもりです。皆さんにもそんな気持ちで1年間職務に精励してほしいと思っています。この『至誠は息む無し』は経営の神様の松下幸之助さんの、「1万回の祈り」に通じると私は思っています。松下幸之助さんは「何か大事をなそうと思いついたら、1万回の祈りを捧げることが大切だ。」と言っています。

祈りということは考えることです。ずっとそのことを考え続ける。皆さんもおそらく恋愛、仕事、受験などで一つのことをずっと思い続けたことがあると思います。そのことが成果を生むという体験を、皆さん自身が持っていると思います。

1日に1回だけ考えていたら、1万回に達するまで30年かかります。1日に3回祈れば10年、1日に10回祈れば3年になります。石の上にも3年といいますが、3年間ひとつのことを思い続けていれば、必ず成果をあげられるということだと思っています。そして一人ひとりが祈るのではなくて、職員皆さんと一緒に町のことを思えば、さらに大きな成果をあげられるかなと思います。290人あるいは280人の職員の皆さんが1日1回真剣になって祈る、それを365日続けると10万回を超えるわけです。われわれ1人ひとりの力はごくわずかな小さいものかもしれませんが、みんなの力を結集することによって大きな力になり町を変えることができる。私はそう信じています。

ぜひとも皆さん自身そうした気持ちで仕事に励み、そしてそれを自分自身の人生にも活かして行ってほしいと思います。

新たな年を迎えて、皆さんに4つほどお願いしたいことがあります。

1つは毎回お話をしていますが、「ハウレンソウ」。報告・連絡・相談です。仕事をしていく上で、職場の環境を円滑に進めていく中でも大事なことであろうと思っています。特に

町長になると、いろいろな所に行き、いろいろな方々にお会いし、いろいろな話をさせていただきます。そのときに町長が知らなかったとなると、住民の皆さんから怪訝な顔をされます。何でもわたしの方にあげてほしいと思います。

ある企業経営者の話ですが、300人規模の小さな町工場の社長は、職員一人ひとりが今何を考えているのか知っていなければならない。あるいは、工場の隅にある机の中にどんな道具が入っているのか知らなければいけない。そのくらいのことを知らないと300人規模の工場の会社の社長は務められないと言っていました。まさにそうなのかなと思っています。ハウレンソウをよろしくお願いします。

2つ目は、対話です。皆さんと対話を重ね、皆さんのご意見をしっかりと町政に反映させていきたいと考えています。

去年はトークセッションを開催しました。若い職員の皆さんと対話を重ね貴重なご意見をお聞きすることができましたし、皆さんが今どんなことを考えているのか理解することができました。そうした皆さんの考えを町政、そして職場の改善にしっかりと役立てていきたいと思っています。

3つ目が「頑張っている人が報われる組織にしたい」と思っています。今年から職員の評価制度が新しく導入されます。そういった中で、頑張っている方々に対してしっかりとした評価をさせていただきたいと思っています。昇給であるとか勤勉手当等にも反映をしていきたいと考えています。

4つ目は、地域防災力の充実強化にご尽力をいただきたいと思います。阪神淡路大震災・東日本大震災等を経て、住民の皆さんの地域防災力に対する関心も高まってきておりますし、着実にその力はついてきています。

先ほどお話しました藤久保第3区自主防災会、防災功労担当大臣賞をいただきましたが、こうした動きの中で地域連携避難訓練を行い、皆さんの意識も高まってきていますし、消防団が消防庁長官から表彰旗の授与をいただいたのも、全国的には消防団員数が減少し、災害の時に地域のことをよくわかっていて、地域の要となって防災に協力していただける、そうした団員が少なくなっている中で、三芳町消防団は埼玉県内ではじめて機能別消防団、OBの皆さんが現役の消防団員を支えようということで作った組織です。そうした活

動が評価されたものです。近年でのこうした中で、各自治体、市の職員、役場の職員が消防団員になって活動していただいています。皆さんはそれぞれ仕事をお持ちであり、家庭もあります。消防活動というのはハードルが高いとあってらっしゃるかもしれません。やはり災害が発生したときに一番頼りになるのは、職員の皆さんです。皆さんが参加しやすい消防団を支援する組織をしっかりと作っていきたいと思っていますので、ぜひとも皆さんにはご参加をしていただきたいと思います。

今年はいよいよ第5次総合計画が策定される年です。ここまで政策推進室を中心に、住民意識調査、まちづくり懇話会。各団体、各地域との意見交換会を重ねてまいりました。

各課から総合計画というのをまとめていただき、やっとなパブリックコメントをさせていただけるところでございます。この総合計画がいよいよ出来上がり、平成28年度は新しいまちづくりのスタート、キックオフの年になろうかと思えます。初心に戻って皆さんとともに第5次総合計画のもとで、新しい未来の三芳町をしっかりと作っていきたいと思えます。私もまだまだ未熟ではありますが、ぜひとも皆さんのご協力をいただきまして、ともに良い町を作っていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

結びにあたりまして、まずは皆さん自身健康にご留意され、家族ともども輝かしい明るい年になりますことを心からご祈念申し上げまして、年頭のあいさつといたします。1年間どうぞよろしく願いいたします。